
豹変した日常 止まない戦いの嵐

シーザス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

豹変した日常 止まない戦いの嵐

【Nコード】

N9428Y

【作者名】

シーザス

【あらすじ】

彼等はいつの間にか始まった戦いの渦に巻き込まれていた。

彼等は何？王？と名乗る男を倒すために、この戦いを止めるために立ち上がる。

僕は

全てを失った。

大切な物をなにもかも。

ドオーーン!!!

爆発音が響く。

「合図」だ

また「始まりの合図」が起きた。

今日はもう、三回目だ。

「……」「合図」……いかなきゃ……(でも……いつから変わってしまったんだろうか……この町は……いや、この世界は……いつから壊れていったのか。今では誰にも思い出すことはで

きない・・・」

僕は左脇差しにしてある黒い三本の「刀」

「幻滅」

「蛇鮫」

「破碎」

この中から「破碎」を選び鞘から取り出した。

「いごっか。」「破碎」

僕は「合図」のあった、煙が上がっている場所まで一気に駆け抜けた。

私は

助からなかった。

「彼奴」の為に戦うって誓ったのに、結局一番最初に殺されちゃった。

私は幽霊だ。

誰も私には気づいてくれない。

だけど、「彼奴」だけは私に気づいてくれた。

私の「存在」に気づいてくれた。

私は嬉しかった。

「さっきの爆発音・・・」

私はさっきの爆発音が気になっていた。

「集まっている・・・？もしかして、始まりの」合図？・・・
！急がなきゃ！！！！」

私は愛刀、「波紋」^{はもん}を鞘に入れたまま、煙の上がっている場所まで向かっていった。

「確か・・・煙はこの辺りから上がっていたはずだけど・・・」

僕は煙が上がった場所に来ていた。

しかし、回りには誰もいない。

ましてや煙すら立ち上っていない。

「（物陰に隠れているのか・・・？ はたまた襲いやすくするため
の罠か・・・だけど、どちらにせよ負けはしない。」

「はっ！ こりゃあ大物がかかったモンだぜ！！」

「誰？」

声が出た方向に向く。

筋肉質の大男がそこにいた。

左手には自身の二倍近くある「ダブルアックス両手斧」を担いでいる。

「おまえ……？斧使い（アックスマスター）？だな？」

「御名答！俺は？斧使い？だ！ま、一番格下だがな。んなことより、貴様にかけられてる懸賞金……俺がいただく……！」

「断る……！」

「破碎」と「両手斧」がぶつかりあい、火花を散らす。

「ヒヤッホー……ウ……！」

「掛け声だけは一人前だな！」

ガキーン……！！

ギキーン!!

いくつもの火花が散った。

「おらあああああ!!!!」

「・・・終わりだ」

ふわぁ・・・

「なっ!!!!? 体が!!!!?」

軽い風が吹いたと思ったら、大男の体の自由が効かなくなった。

「? 風裂斬?
フウレツザン」

研ぎ澄まされた風の刃が放たれる。

「う・・・うわあああああ!!!!!!!!????」

ズバン!!!

大男の体は上下半分になって力無く倒れた。

ドシャツ・・・

「！ (空気に血の匂いがほんの少しだけ混じってる・・・誰かが殺られた？ けど・・・) 「彼奴」じゃないね。」

私は少しだけ急いだ。

その途中に様々な死体が転がっていたが、気にしなかった。

「・・・！ 居た！」

私は「彼奴」を見つけた。

「……この気配……一週間ぶりだね」

僕は振り向いて言った。

「元氣そつで何よりだよ。……と言っても、今は幽霊だったかな？ 聖夜^{せいよ}」

「酷いよ！ 幸人^{ゆきひと}」

「だけど……あれ？ その手に持っているのは「波紋」？ もしかして……ずっと持っていてくれたの？」

聖夜は少しだけ顔を赤くしながら

「うん。だってこれが今の私にとって幸人を感じていられる、最後の武器だもん。」

「……もしかして、キミも？ 王？を倒すのを手伝ってくれるのかい？」

「うん。霊体になっても物が掴めるんだから私だってあんたの力になりたいんだ。」

「・・・仲間は多いに限るよ・・・ありがとう。今の段階では仲間は僕とキミだけだけど、これからどんどん増えていくハズさ。」

「絶対に？王？の秘密を暴いてやるんだから！！」

「そうだね。とりあえず、ここは危険だ。今から僕の隠れ家にいこう。あそこなら、しばらくは安心のハズだ。」

「わかった。」

・ 彼等は気づかなかつた。後ろに何人も人がいたことに。この後、二人はこの大群に襲われることになるが、それはまた、別のお話。・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9428y/>

豹変した日常 止まない戦いの嵐

2011年11月28日02時55分発行